一般質問

子ども医療費助成の更なる改善を求む！

高橋博幸

子ども医療費助成の改善を

町長答弁

県の助成拡大を受け、入院医療費助成対象を12歳まで拡大した。今後は通院医療費助成について、現行の6歳までを小学校卒業の12歳までに拡大が考えられるが、多額な一般財源が必要となり、他市町村の状況等を踏まえながら検討したい。

質問

現在、通院医療費助成は就学前までだが、これを小学生まで拡大した場合、およそ400万円程度と聞いている。

今議会でも国保会計補正予算の中に、出産一時金の大幅減額がある。原因は資金不足ではなく、支給対象出生数が見込みより更に減少している。子どもが生まれていないということだ。

この実態を踏まえ、少子化対策を考えるなら、子ども医療費助成にこそ光を当てるべきだ。

昨年4月1日現在、通院について、魚沼市は小学校卒業まで、刈羽村は中学校卒業までを助成している。入院は十日町市、刈羽村は中学校卒業までを助成している。

財政的な理由ではなく、リーダーの気概次第でできるはずだ。

あわせて入院時の食事代に対しても考えるべきで、すでに助成する自治体も出ている。

かつて議員の質問に町長は「予想を超える住民税が入ってきており、それをどのように配分するのが良いか考えてみたい」と答弁している。将来の人材育成の為に、子ども達の為に子ども医療費助成制度の更なる改善を進めるべきだ。

町長答弁

確かにこれからの芽を育てていくのは大変大事だ。と考えているので前向きに検討する。

どうする医師確保は

町長答弁

今年度はインターハイがあり、六日町病院の整形外科1名体制を2名とするよう県に働きかけてほしい、との要望もあるので対応したい。

湯沢保健医療センターにも引き続き申し入れを行っている。

質問

今年12月現在の県立病院の整形外科医は、小出病院6名、十日町病院4名である。ところが六日町病院は1名しかいない。なぜに1名しかいないのか。

震災復興に向け新潟県、湯沢町あげて冬の誘客をしても、医療体制が不備となれば、評判を落とすだけである。

冬期間は他の県立病院から六日町病院に整形外科医を派遣させることがなぜできないのか。

町長は医療の面にこそ新潟県知事とのパイプを十二分に発揮すべきだ。

中学建設より育成理念・構想が先だ

質問

あえて町長の教育に対する気概を質す。

町長答弁

教育こそが人間社会の存立基盤であるという視点に立ち、学校、家庭、地域社会がお互いに関わり合いをもち連携し、心身ともに健全なる青少年の育成を図っていきたい。

湯沢中学校の建て替え計画を機に、湯沢町の子ども達の教育がどうあるべきかを教育委員会に検討していただき、次世代を担う自立した青少年の育成を図りたいと考えている。

質問

当選時には社会教育の分野について、人間力の向上に力を注ぎたい。と表明していたが、その後は結果として町長の強い意志や行動は見えてこなかったは否めない事実である。

従来から、湯沢の子ども達をどう育むか。教育の基本理念也教育の基本構想を策定せよ。と提案してきたが町は何も出来なかった。

町の最大の責務は将来の人材育成である教育にある。リーダーとして取り組むべき大きな課題である。

ならば、中学校建設にあわせて考えるというより、子ども達をどのように育んでいくかの理念なり構想なりの議論や策定があって、その後に建設の検討に入るのが本筋と考える。

構想を決めるまでは建設検討に入らないくらいの気概が町長には必要であり、従来のドタンバになって帳尻だけ合わせる手法では将来の人材である子ども達は育てられない。

町長答弁

教育委員会に諮問をしているがどちらを優先ということはしていないが、項目を挙げてしているのでそれに添った形で検討していただけるものだと理解している。